

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和５年度 第４回草津市社会教育委員会議
日 時	自 １０時００分 令和６年２月２９日（木） 至 １１時３０分
場 所	草津市役所６階 教育委員会室
出 席 者	委員：山口委員長、長橋副委員長、橋本委員、北川委員、内田委員、 藤澤委員、奥野委員、山元委員、中瀬委員、武田委員、福田委員 事務局：藤田教育長、増田部長、岸本総括副部長、二井図書館長 生涯学習課 古川課長、廣政課長補佐、河合主事 傍 聴 人：０名
会議関係書類	☒ 有（別添のとおり） ☐ 無

１．【教育長挨拶】

２．議事

１）前回の会議の振り返りについて

資料１に基づき、事務局説明

【委員長】

前回の振り返りについてご説明いただきました。

ただいまの内容について修正や追加など、ご意見ございますでしょうか。

続いて、議事の２－２ 報告書案の説明をいただきますので、現時点で特にない場合も、お気づきの点があればこの後の議論でお示しく下さいませ。

【事務局】

それでは資料２の報告書（案）をご覧くださいと思います。

まず１ページは目次でございます。

全体の構成ですけれども、１ページに「はじめに」、２ページ目から「令和４年度読書ボランティア人材養成講座」について、２ページから３ページにかけては５年度の講座でございます。

そして３番目、検証ですが、４ページから５ページは人材発掘に関する検証。

6 ページから 8 ページは人材育成に関する検証、8 ページにまとめ、9 ページに「終わりに」という、こういう構成になってございます。

そして報告書の後ろに資料編がついており、全体として報告書の構成はこのようになっています。

では早速ですが、1 ページからご覧いただきたいと思います。

はじめにと題しまして、現在の学びを取り巻く状況であるとか、今期の取り組みについて、報告書への導入部分として文を載せております。

次に 2 ページ目でございます。

2 ページ目上段でございますが、これは令和 4 年度の読書ボランティア人材養成講座についてでございます。

日程は、11 月 19 日（土）、12 月 3 日（土）、12 月 1 日（日）の 3 日間開催をいたしまして時間が午前 10 時半から 12 時。場所は市立図書館の 3 階の大会議室でございます。

受講者数は計 24 名。

若者世代を 20 代から 40 代というふうに定めさせていただいておりますが、6 名という結果でございました。

開催結果といたしまして、土日の午前中であれば、若者の方の参加者が見込めるという想定のもと実施したところですが、若者の参加者が少ない結果となりました。

いくつかの問題点が、導き出されました。

日時の選択肢が少ない、会場が図書館であり、交通アクセスがよくなかったのではないかな。全 3 回の講座であり、回数が多かったのではないかな。広報誌、ホームページの周知だけでアピール不足だった。受講メリットのアピールができていなかった。込方法は電話、メール、FAX のみと、このような問題点により、このような結果になったと考えております。

同じく 2 ページ目の下段から令和 5 年度の講座についてでございます。

令和 5 年度は前年の反省点を踏まえた改善を行い、委員の皆様から会議の中でいろいろと改善点についてご意見いただきました内容を反映させて開催した内容を実施し一覧表にまとめました。

令和 5 年度につきましては、令和 4 年度は休日午前のみだった講座を 3 コース用意し、開催場所も南草津駅前市民交流プラザとし、講座回数も 2 回に、広報につきましても、様々な媒体を使いまして、チラシの方も用意し、また受講すると得るものがあるとアピールの方もさせていただきました。

申し込みには電子申請も可能とし、前年の問題点につきまして、一つ一つ改善を行ったところでございます。

3 ページの上段でございますが、若者の参加人数です。

平日午前コースが 24 名のうち、30 代 40 代の方が 14 名です。

平日夜間コースが 10 名の参加者、20 代と 40 代の方で、6 名の若い世代の参加

休日午前コース 8 名の参加者の、20 代 40 代の方が計 4 名の参加。

令和 4 年度は 6 名だった若い世代の参加者ですが、令和 5 年度は 24 名と非常に多くの参加を得ることができました。

次に 2 つのグラフを載せております。

こちらは受講者数の比較と、コース別受講者です。

続きまして、4 ページをご覧くださいと思います。

4 ページから、まずは人材発掘に関する検証と題しまして、若者の参加者が 24 名に増加した要因を探るため、講座受講時に調査を行いました結果の検証です。

人材発掘に関する検証でございますが、講座受講のきっかけです。

複数回答可ということで、アンケートをとった結果になっております。

受講のきっかけとして「絵本の読み聞かせの講座を探していた」という方が 8 名おり、「市ホームページで詳細を見た」が 6 名で、14 名の方は学習機会へのアンテナを張っておられ、積極的に学びの情報を求めている人が多かったと考えております。

また、「日時が複数あったから」が 7 名、「託児があったから」が 3 名と、受講しやすい環境を整えたことにより受講者が増えたと考えております。

また「絵本のプレゼント」が 3 名と受講のメリット提示により受講に繋がった人もいました。あとその他という回答が多く、読み聞かせ技術の向上のためスキルアップのためという方が 5 名ほどいらっしゃいました。

そして「1 回の受講時間が短く、2 回で終了のため受講しやすかったから」、「以前受講して良かったから」という、令和 4 年度に受講いただいて、また令和 5 年度も受講いただいたという、リピーターの方もいらっしゃいました。

次に、講座を何で知ったかというアンケートでございます。

「広報くさつ」で知った方が 11 名、広報誌は有力な媒体であると考えられます。

次いで「知人からの紹介」という方が 5 名おりまして、横の繋がりによる口コミも非常に有力であると考えております。

また電子版媒体である市のメール 3 名、ホームページ 1 名、X1 名の計 6 名おり、様々な電子媒体による情報提供も、それぞれの人数は少ないですが幅広く情報を発信するのに効果的であると考えてございます。

5 ページ目でございます。

講座の申し込み方法につきましては、電子申請システム QR コード利用が 22 名。

電話申し込みが 2 名であり、ほとんどの方が電子媒体の方で申し込みをしていただきました。この方法は大変効果を発揮したものと考えておりますし、現在はこの申請方法が主流であるということが明らかになったと考えてございます。

これらの結果から、参加者を増やすために考えられることとしまして、「講座開催日時の選択肢を増やすこと」、「受講のメリットを市ホームページやチラシでアピールすること」、「託児があることをアピールすること」今回、託児は 20 代の方が 1 名、30 代の方が

2名、利用いただきまして、3名の若者の参加に繋がっております。

「広報くさつやSNSチラシなど様々な媒体で広報する」、「QRコードによる電子申請を採用する」といったことが参加者を増やすために考えられ、検証の成果としております。

次に、「参加者を増やし人材を発掘していくためには、講座の開催日時は豊富な選択肢を用意し、様々な媒体で講座情報や、受講の利点、効果などを幅広く発信するとともに、託児の用意やアクセス良好な場所での開催など、若者が参加しやすい環境を整えることが大切である。」ことがわかったことが今回の講座実施から検証につきましての成果であると考えてございます。

続きまして6ページでございます。人材育成に関する検証でございます。

今期の取り組みにおける人材育成については、講座受講後、修了生を対象とした「修了生の会」の入会を通じて活動の場の提供を行うという流れで行いました。

今まで講座受講後に活動につながる方が少ないという現状がございましたので、つながる人数が少ない原因と活動につなげる方法を探るために、今回、20代から40代の受講者、24名いらっしゃったんですけども、その方たちを対象に事後調査を行いました。24名中回答者は16名でございました。

そのうち、「講座受講後に新たに読み聞かせなどの活動始められましたか」との問いに、「新たに読み聞かせなどの活動を始めた」と回答者が3名、「活動していない」という回答者が7名おり、こちらの10名を検証の対象といたしまして、属性を調べたところ主婦・主夫が5名、この主婦の方のうち、活動を始めた方が2名、初めてない方が3名。会社員の方が3名、自営業の方1名、学生さんが1人おられまして、学生さんは活動を始められました。

活動を始めた方3名の内訳ですが、こちらが情報として提供させていただきましたスーパーマーケットでの読み聞かせと、市役所さわやか保健センター3階の子育て支援施設「ぽかぽかタウン」で読み聞かせ活動を開始されました。スーパーマーケットとぽかぽかタウンは、いずれも平日の午前でのご案内でした。

7ページでございます。上の表でございますが、講座受講後に新たに活動を始めた3名の講座受講の目的、こちらも複数回答可としております。

活動を始めた3名の回答は、「スキルアップ」、「子どもに関わる活動がしたい」でした。3名ですので回答数が非常に少ないですけれども、「何かやってみたい」という設問も用意したのですが、活動を始められた方は、活動内容が不明確な「何かやってみたい」という回答がございました。

次に、講座受講後に活動していない7名の講座受講の目的も複数回答可としております。7名の目的は、「スキルアップ」が多かったのですが、他に「子どもに関わる活動」や「読み聞かせ活動」という活動の回答もありました。また、「何かやってみたい」という方が3名ほどおられまして、具体的に何がしたいか定まってないという方もいらっしゃ

やったところでございます。

次にページ下段、講座受講後に活動していない、7名の方の活動できない理由も複数回答可能で調査をしております。

「都合が合わない」という回答が最も多く、こちらからご提示させていただいた活動日時に都合が合わないという回答が最も多く、あと、「経験不足」、「仲間がいない」、「時間がない」、「始め方がわからない」、「無償だから」、「子どもが小さい」という回答でした。

これらの理由を踏まえ、次の8ページをご覧いただきたいと思います。

この7名の方の活動できない理由を基に、活動につなげるための検証でございます。

まず「都合が合わない」という場合、回答者4名のうち、3名の方は平日午前の講座受講者であったのですが、平日午前の活動に参加しなかったため、活動当日の都合が合わなかったと考えられます。曜日により都合がつきにくいのか、当日の都合が駄目だったのかとかなど、いろいろなことが考えられるのですが、やはり時間とか内容とか場所を、講座と同じように、活動も細分化をいたしまして、選択肢を豊富に用意することで、活動へとつなげていけるのではないかと考えており、選択肢を多くすることで活動へのハードルを下げることを大事であると考えております。

次に「経験不足」、「始め方がわからない」という回答につきまして、活動開始するにあたり、活動の予行演習の機会を提供して経験を積んでもらうなど、やはり経験不足や始め方がわからないというのは、一定の不安要素でございますので、こういった不安に感じていることを解消する支援を行うことが必要であると考えました。

あと「仲間がいない」という場合、活動早期は仲間意識を醸成する機会が必要であると考えられ、修了生が交流できる場を設け、つながりをつくることや、活動の情報交換を行うことが有効だと考えられます。

「時間がない」という場合、将来的に活動につなげるため、学ぶという意欲にこたえていくことが大切であると考えております。

「無償だから」という場合、報奨や交通費などボランティア活動の有償化の検討も必要であると考えております。

「子どもが小さい」という場合ですが、託児を用意してそれをご利用いただくというふうなところがまず入口かと考えているのですが、できるだけ活動しやすい環境を整えることが必要であると考えております。

次に検証の成果といたしまして、学びを活動へとつなげ、人材を育成していくためには、活動できない原因を的確に把握するとともに、不安要素を取り除くことが必要であるということがわかったところです。

次に、まとめについては読み上げをさせていただきます。

「今期の取り組みでは読書ボランティア人材養成講座をとして若者の社会的活動への参加促進を図ることを目的に調査研究を行い、人材発掘では講座の案内や内容の充実により、若者の受講を促進できること、また人材発掘では、講座を開催するだけでなく、仲

間づくりや場づくり、練習機会の提供により、新たな活動者を生み出せることがわかった。

今期の取り組みは他の分野に応用することも可能であり、次代の地域活動を担う人材の確保に役立つものと考えられる。

今回の講座のような社会教育を通して得た技術や知識を、地域でのボランティア等の社会的活動につなげ、定着させていくためには、学びの入口から活動に至る出口までの間、一人一人に寄り添った伴走型の支援を行い、活動へのハードルを下げ、活動の選択肢を広げることで、学んだ人材が安心して活動開始できる「環境づくり」を行うことが大切である。また、意欲ある人材の「受け皿づくり」も、活動の継続には必要不可欠であり、活動者と地域のニーズが合致する場合には、両者の積極的なマッチングが望まれるところである。取り組みを通じて、学びから人材を育成することの難しさがわかったが、今期の成果の活用により、1人でも多くの人材が育つことを期待し、今期の報告とする。このようにまとめさせていただいております。そして9ページ「終わりに」でございます。こちらの方は、山口委員長にお言葉を後にいただきたいと思っております。

続きましてめくっていただきますと資料編という表紙が出てまいります。ここから資料でございます。ここは簡単にどのような資料があるかを説明いたします。

めくっていただきまして1ページ目、今期取り組みです。テーマ設定について、社会教育委員会議の開催実績等を2ページにわたり、掲載をしております、最後の2ページ目の第4回のところは本日終了後に記載いたします。

次に3ページから、10ページにかけまして、アンケート調査、出席者の実績、報告書をまとめる根拠となる資料を載せてございます。

そして11ページが、事前アンケートです。11ページから12ページにかけまして、講座、講座受講前のアンケートでございます。

12ページには、今回ご用意しました絵本のリストもあり、13ページ14ページが講座終了時のアンケートでございます。

そして15ページが、24名の20代から20から40代24名の方を対象に行いました事後アンケートでございます。

そして16ページ、17ページが読書ボランティア養成講座のチラシでございます。18ページ、19ページが修了生の方の活動状況です。令和5年度の活動、そして19ページの方には講座の様子も載せております。

そして20ページ、21ページが、こちらは滋賀県子ども読書活動団体調査という調査が県の方でございまして、令和5年1月1日現在のものですが、市内の読書活動団体について、調査したものを参考としてつけてございます。

最後に12ページが社会教育法の抜粋と、23ページに医の皆様の名簿をつけさせていただいております。

資料編としてはこういう形になってございます。

こちらの報告書案でございますが、本日の会議の場で意見のみ、委員の皆様からご意見

をいただきまして、本日の会議終了後に、ご意見等に基づき、必要に応じて修正等行いまして、山口委員長に最終のご確認をいただき、委員長のお言葉を掲載のうえ、完成といたしたく考えてございます。

前回の会議ではもう少し早期に委員の皆様へ、この報告書案をお送りいたしまして、事前にご意見をいただき、本日ほぼ完成したものを本日の会議でお示させていただきたいと申しておりましたが、まとめるにあたり、時間がかかってしまいましたので、今日ほぼ皆さん初めて見ていただくような形になりまして、お詫び申し上げます。

本日の会議で委員の皆様からご意見を賜りますようお願いを申し上げます。大変説明の方が長くなりましたが、以上で報告書案についての説明を終わらせていただきます。

よろしくお願いいたします。

【委員長】

ただいま事務局から報告書についてご説明いただきました。ぜひ内容について皆様からご質問やご意見をお示しく下さいませ。

【A委員】

資料の案のご作成ありがとうございました。

3つ意見ですね。一つ目が2ページ目。問題点で申し込み方法は電話、メール、FAXのみって書いてあってのみだったから何かというその結論がわかりにくいので、他の部分と同じく何があったのかというような書き方に合わせて欲しいと思います。

書き方という意味で2ページ目の改善ポイントが、これが悪かったのかよかったのかは読んだらわかるのですが、例えばどのコースも選択可能とか振替も可能にしたとか、書いていただくとよりわかりやすくなるのではなかろうかという意見です。

2つ目が、8ページ目の角丸部分が考察の部分で、考察部分は結構重要だと思うのですが角丸で閉じられていると、おまけみたいな感じに見えてしまって。重要な場所なはずなので、アピールしてあげてほしいということと、有効とか大切とか書いてあるんですけども、感覚的な話だと思うので言い回しを考えていただけると、と思います。そこが今後の課題かなというのはわかるのですが、改善点というのは大切かどうかちょっと現時点わからないかなと思います。

3つ目ですね。人材育成のために活動の場を提供するというのが今回入っていますが、なぜその活動の場の提供によって人材育成につながるのかというところが抜けているので、まとめがわかりにくいかなと。報告書は万人がご覧になるかと思います。活動の場を提供すると人材育成に繋がるという説明がどこにもないため、そのご説明があれば嬉しいなというのが3点目でございます。

【委員長】

講座の管理・運営について特にご意見をいただきました。2年間の取り組みの中でいくつかの改善を図ってきた中で、申し込みが電話とメールとFAXという方法だったという事実の説明と、その結果に対する分析を行い、さらなる改善のかのうせいを提示する必要があるのではないか、という御指摘と受け止めました。また、そもそも場を提供することが人材育成につながることにについては、昨年度の最後に図で整理し、これからも図書館との連携で重視していくとの筋書きがありました。その点がまとめて示されていないと読み手側に解釈を求めることになるので、2年間を通して確認できた場の意義、実践の意義、事業の意義を明らかにする必要があるのではないかというご指摘、ありがとうございます。

【B委員】

A委員がおっしゃった、8ページ目の丸の囲みのところですが、一番下を書いてある「子どもが小さい」という場合は託児を用意するなど、とあるのですが、どこかに読み聞かせボランティアで行かれる際にその人のお子様の託児を用意するという意味でしょうか。理想的な形かもしれませんが、その一行上で「無償だから」行かない。つまり、有償ボランティアなのか無償ボランティアなのか、交渉や交通費などボランティア活動の有償化の検討も必要であるということ。実際にされる方に対してお金を払うかどうかに関しては検討をする必要がある。でも、その人が来る場合に託児を整える必要がある。男女共同参画のセミナーなどで託児を外部の方に委託しますが、講師の謝金よりも託児の料金の方が大きくなってしまうと本末転倒に思えてきます。あと、今の現状において、ボランティア活動や地域活動を行うにあたってその方の託児を用意するのかどうかという。どちらかというとお子さんを連れて行っても現場が受け入れてくれるような雰囲気づくりについて今のところは注視すべきで、この書き方にもう少し工夫が必要じゃないかかと思います。

【C委員】

今お話に出た託児について、養成講座だったら託児はありがたかったのですが、読み聞かせボランティアでわざわざ託児所に届けてから行くっていうのはかなりハードルが高い。B委員がおっしゃったようにその場で託児の方がいてくださるのも申し訳ない。私のところでは2歳の子どもと半年の赤ちゃんを連れての方が来るのですが、お互いに子どもを見合っていて、その周りの人が受けて入れる環境が必要だなと思いました。託児の用意はありがたいんですけど、書き方を考えた方がいいかなと私も思いました。

【D委員】

読み聞かせをやっている者の経験談として申し上げます。I委員と一緒に読み聞かせをやっていることもあるのですが、夢本陣の前で2ヶ月に1度、読み聞かせをしています。そこで読み聞かせをしているメンバーは私を含め5人ほどいるのですが、小さい

お子さんも、実際にお任せしていただいています。自分のお子さんも一緒に来てお子さん自身がその方も読み手でもあるときもある。私たちは受け皿として読み聞かせをする側としたら、どうぞ、いいですよという形をとっております。毎月、草津市の書店の中で読み聞かせをしているのですが、そちらでも同じスタイルをとっています。やっぱり託児やお子さんが小さい場合は親に預けるとかが必要になってくる場合もありますが、仲間で活動する場合は、あまり託児は必要なく、どうぞご自身のお子さんも一緒に連れてこられてOKですっていうスタイルが多いのではないかと思います。

ただ養成講座だと、やはり託児があるほうが安心して講座を受けられるかなというのがあります。

【E 委員】

今お話を聞いていてC委員のおっしゃることもすごくよくわかったのですが、一時預かりを率先して利用していただく方が気兼ねなく参加できると思います。今、公立保育所も一時預かりをやってらっしゃって、どんどんやっていただければいいと思います。ただ、別の会議で、小さい子供がいるから学校のいろんな行事に出ないということだったら、全部保育園に預ければじゃないですかと言われました。もちろんそういう利用の仕方でもいいのですが、園側としたらいきなりその子を預かることができないということをなかなか周知できていない。乳幼児をすぐに預かるような体制をとるためには、その園に登録をし、アレルギーがありということを全部園がわかった上で、一時預かりが始まります。その手順を踏まず、プロだから預かるべきだという言い方をされることがよくある。保育士の人材がいない中で託児を委託するというのも大変だと思うので、ぜひ既存の園の一時預かりという制度を利用していただく方向を進めていく。そのためには、ちゃんと園に登録をしておいてください。いざというときにすぐ預かることができる園との繋がりがあれば、私は今の話でいけば意外と解消されるのではないかなと思いました。

【委員長】

確かにすべてを生涯学習課が管轄してやり切る話ではないのかもしれませんが。行政サービスとして整える部分と、むしろ地域の団体などと連携して進める方が適する場合もあるでしょう。D委員が地域で仲間どうしの取り組みを例に示されたように、むしろ行政側がフルパッケージでケアすることが適切ではない場合もありうるということです。C委員のご指摘の通り、どこを市がやってどこをやらないかは、参加者へのケアというよりは、こういう方に来て欲しいというメッセージにもなります。何をどこまでするか、フルパッケージが適切ではない場合もあることを前提にした上で、ケースバイケースで現場に運営をゆだねる部分もあるでしょう。何より、そうした工夫がまた市の読書人口の増加にも繋がるのではないのでしょうか。そうした見立てをきちんと示すことは、これまでもなされてきたでしょうから、今後も踏み込み過ぎないことが大事ですね。

【F 委員】

修了生の会についてイメージがわきにくいということですが、この報告書で会の存在が示されるため、誰にどんなアプローチをしているのかなどの概要を示す必要がありますね。入会の条件や、参加人数、活動頻度、活動場所、問い合わせ先、さらには修了生の会に一般の人が頼めることがあるのかなど、報告書を読んだ方に受け止めやすいような書き方が求められるでしょう。

【委員長】

ただいまのご意見で、修了生の会についてイメージがわきにくいということでした。

誰にどんなアプローチをしていて、修了しないと入会できないのか、何人がどのくらいの頻度で活動していて、どこにその問い合わせればいいのか、修了生の会に頼めることがあるのかとか、報告書を見た方が、受け止めやすく書くといいのではないかというご意見でした。

【事務局】

今現在、修了生の会として読書ボランティア人材養成講座を受講された後に、ご入会いかがですかという形でお声がけをしております。ただ、修了生の会として組織しておりますものの、規約があるわけでもなく LINE で緩く繋がっている会です。その LINE で、例えば商業施設やイベントでの読み聞かせの情報を流して参加者を募っています。

理想を言うと、毎回講座をすることに入会したいという方が増えてきていますので、定期的な交流の場を持ったり、情報交換をしたり、会員同士の情報交換によって活動の場が広がっていくといいなと思っています。

先ほど活動できない理由の一つに仲間がいないというご回答もありましたが、修了生の会を通じてそういったところの解消も目指していけるのではないかなと考えております。まだこの修了生の会については運営できているというところにまで達していないというのが現状でございます。仲間づくりに主眼に置いて、こちらからの情報を提供させていただいていただいたものに負担なく、この日にこれがあるから来てくださってという形ではなく、日程が合う人や活動したいなと思う人が行ける時に行くという、いわゆる自由に参加をいただけることを尊重しながらやっていきたいなと思っています。

【D 委員】

その修了生の会に入っている 1 人として、今 LINE グループに入っているメンバーは 16 名。この LINE で、絵本の読み聞かせしますよと発信していただいたり、それを見ていける人は行きますと投票をします。

そのほかにも私や I 委員が、ここでこんな活動しています、よかったらどうぞというような発信もしております。

【委員長】

F 委員は昨年度の修了生だったと記憶しているのですが、入っておられないのですか？

【F 委員】

3 回あるうちの 2 回ほどの参加で修了できていなくて。

【事務局】

受けていただいて、すべて参加しないと入れませんというものではもちろんなく、ご意思さえあれば、当然大丈夫です。

【委員長】

講座受講をきっかけに 16 人が LINE でやりとりしながら、その後の継続的な活動に携わる有志の会（修了生の会）があります、市内各所での取り組みについての情報共有と相互に呼びかけをしながら、継続的な活動を展開していくというネットワークもありますというところでしょうか。修了生の会がきっかけになってまた新たな読書や読み聞かせ、子育てを含めた、生涯学習の幅広い人たちが支え合う一つの軸であるような取り組みにもなっていくような気がしています。閉じたものでなくてこれまでの流れの中から生まれたものであるということです。

【事務局】

確かに修了生の会はこの報告書で唐突に出現をいたしますので、F 委員からもご意見いただいたように、この修了生の会の説明を盛込んで、初めて読んだ方にも理解いただけるように書き加えたいと思います。ありがとうございます。

【B 委員】

資料編の 16 ページですけれども、修了生の活動ということで写真等出ています。より具体的に、この講座を卒業されて修了生の会があって、活躍の場も用意しています、とちょっと踏み込んで書かれると、仲間を見つけたくてという方の受け皿としてちゃんと機能していて、仲間がいないからこそ来てくださいというメッセージになるのではないのでしょうか。

あと前回の会議でも少しお話させていただいたように、サークル助成金という制度があります。先ほどの有償化の問題にも繋がってくると思うのですが、若い方が安定的に活動するために、やはり全部無償というのはやっぱりハードルが高いと思うんです。サークル助成金はまた別の課が担当にはなると思うのですが、助成金の使い道などについて丁寧にしていくことで、やはり若い方の掘り起こしに繋がっていくのではないかなと思います。

逆にシニアの方の活動を支えていくには、ぽかぽかタウンという情報サイトがあるので

すが、若い保護者の方はそこで情報をゲットされていると思います。あのサイトはワードプレスで情報を更新することになっていて、なかなか面倒くさいんですよ。ですから、ワードプレスができない、自分から情報発信ができないっていうシニアの団体もたくさんありますので、定型のフォーマットや代わりにやってくれるとか、そちらも柔軟にしていくとシニアの方の活動もまだまだ輝きますし、丁寧にすることで変わっていくこともあるのかなと思います。ぽかぽかタウンは他の課が担当されていると思うのですが、やはり横同士行政の中で連携を取っていただくということで小さな階段を平らにさせていただくということをしていただけたらいいんじゃないかなと思います。

【委員長】

ご存じの方も多いかと思われますが、ワードプレスと言うのはホームページを構築するソフトウェアの名前です。設計の自由度が高いシステムですので、もし表示がややこしいのであれば工夫をいただいて、効果的な運用への道が開かれることを期待しています。

【G委員】

何点かですけれども、一つが 8 ページの活動に繋がるために考えられることの文言なのですが、「無償だから」というところの後半部分でボランティア活動の有償化の検討も必要であるという文言が、他の部分と比較すると「検討も必要」なので、ちょっと弱いかなという気がして。検討か必要のどちらかの方がいいかなと思いました。

あと、活動の場とボランティアさんのマッチングという話が出てきたので、どこか活動の場、受け皿となってくださったところの感想や結果の報告があってもいいのかなと感じました。

最後もう 1 点は、B 委員がおっしゃられたようにこの報告書の中にも結構ボランティアさんの横の繋がりという表現方法が多いので、やっぱり生涯学習課さんも例えば E 委員であったり私であったり H 委員であったり教育とは違う部分の活動をしているのでそういう意味で横のつながりを持っていただけるともっと横の広がりが出てくるんじゃないかなと感じました。

【E 委員】

素朴な質問ですが、この読書ボランティア人材養成講座を終わると、いわゆる養成講座修了証のようなものは発行されるんですか。

【事務局】

修了証というものは、発行はしていません。

【E 委員】

養成講座に受講されたら修了証のようなものがあると、個人の気持ち的にも変わってくるんだろうと思います。草津市認定読書ボランティアとかいうようなものがあると。うちでもそうですが、たまにボランティアの方が来られて名前がわからない時が多いんですよね。どこから来ているか、関係がわからないということがあるので、この草津市読書ボランティア人材養成講座修了者何々とかがあれば、逆にいいのではないかなと今思ったんです。

【H委員】

志津にも自然学校というものがありまして、年 6 回すべてに参加していただいた方に修了証をお出しするんですよ。その修了証をもらった 1 期生 2 期生の OB が自然学校の活動をプロデュースする立場としていらっしゃる。地域の活動を支えていただく知り合いのようなコミュニケーションが作れる。委員長が先ほどおっしゃったように今後読書というのは地域に根差していく。

例えばうち、くすのきレストランという事業を月 1 回行っています。そこに本大好きっ子さんという団体に来てもらっている。おそらくその事業で本を 1 ヶ月に 1 回しか読まない子もいると思いますけども、真剣な目をしていて、彼らが大人になったときそれが記憶に残るだろうと思っている。そういう場合は、地域がつくっていきますけれども。

修了証の話が出ました。これはぜひ出すべきです。活動したいという意欲を持っておく、その先には必ず地域で活動の場があるんですからね。修了証を出すべきだと思います。

【委員長】

講座修了後に積極的に活動いただきたい、ということであれば、ぜひ修了生であることがわかり、かつ連番が入っていると「私は何番目」などといった具合で話が盛り上がりそうですね。

今後、図書館を中心にした読書ボランティアの養成など、草津市では新たな展開になろうかと思われます。遡って過去の修了生にも渡すのは変かもしれませんが、これまで修了証がなかったということであれば新たに作って渡していのが一つの選択肢でしょう。少なくとも私が委員長だった間の修了証は、私の名前を使っても差し支えありません。

修了証は修了生の会の活動とも関わってくるでしょう。人材育成の取り組みと生涯学習としての活動の継続と結び合わせが、修了書の発行で実現できるという提案とも位置づけられるかもしれません。

【副委員長】

この報告書のまとめというか、我々の活動ということも振り返ってちょっと整理したいところではあったりするんですけども。

ボランティア人材の発掘育成をテーマとして会議開かれているんですけども。多分、この報告書の構成や、先ほどの F 委員の話でも、我々が読書ボランティアの発掘育成について

議論したときには、無自覚的にはあるんですが明確にボランティアの育成の道筋や段階ってものを想定していると思うんですね。この報告書でも書かれているように、道筋の中で段階があってその段階ごとのハードルのようなものを想定して、そのハードルを乗り越えるための議論をしてきたと思うんです。例えば 2 ページにあるような読書ボランティア人材育成講座に関して書かれていることっていうのは、まずその最初の段階である養成講座を知るというハードルをどう超えるか。今度は知った上で参加するハードルをどう超えるのか、参加した後にその講座の内容については前の期でいろいろと検討してきたけども、参加して講座を終えた後に活動に入るハードル。そして、活動に入ったあとに継続するハードル。それぞれのハードルをどう越えるのか。

その段階を超えることに対してどういうふうに働きかけたいとか改善してきたのかということが整理されていると、この報告書で言われている活動の価値がよりわかりやすくなったかなと感じました。

【委員長】

そもそも講座を通じて地域の積極的な生涯学習の担い手を育成してきたことが、地域参加へのハードルを超えていく手段として効果的だったかといった部分をどう示すかにもう少し工夫ができそうだと、というご指摘と受け止めました。主に講座の実施報告となっている中で、生涯学習課の事業としてどのような意味合いを表現するか、何か具体的に工夫できそうなご助言はおありでしょうか。

【副委員長】

具体的なパラグラフとか提案は今すぐには思いつかないんですが、前の期の報告書にもあったことなんですけれども、やっぱり図があったりとか、例えば、2 ページの読書ボランティア養成講座で言われたような改善点が、図でいうどこに当たるようなところに働きかけたのかというようなことがあるとそれぞれの議論とか、アンケートの結果、それをもとにした改善というものの意味合いってのが、より直感的にビジュアルでわかりやすくなるんじゃないかなと思ったりしています。

【事務局】

報告書の全体的な構成としては、講座をしました、改善をしました。その改善をした結果、こういう成果がありました。そこから、活動へと結びつけるにあたり、こういうふうな活動に結びついたという事例も示しながら、ただ、活動につなげるということのいくつかのハードルというものを表現し、今後につなげるためにはというふうな構成で、製作させていただいてるんですけれども、今おっしゃっていただいた道筋ですね。それぞれのハードルを超える取り組みをしてきたという段階というところは、今私が申し上げたような流れの中で、ポイントをとらまえて表現するようなイメージなんでしょうか。

【委員長】

昨年度、2月7日に開催された令和4年度第3回草津市社会教育委員会議の資料4「活動を始めしていくために必要なものについて」で示された図があります。あれをもう一度使ってみるのはいかがでしょうか。既にこの会議で位置づけられた概念ですし、読書ボランティアの育成が地域の担い手づくりになっていくことを示しているものでした。講座や活動だけではなく、場づくりを通して仲間づくりがなされ、そうした実践が地域に根差していく、そうした説明を新しく素材を作って行うよりも効果的でしょう。何より、この報告書は2年間の取り組みのまとめなので、あるものを生かしていきましょう。

【事務局】

おっしゃっていただいたようにこの2年間の取り組みの中での今までの積み上げの中から、活用させていただいて、図を見てわかるような形にいたします。

【委員長】

図では講座と場づくりと仲間づくりの3つのステップで地域での活動が広がっていくとされています。改めてここでその意味を確認しておく、やはり仲間づくりの鍵は修了生の会となるでしょう。実際、報告書の案でも講座から活動の場への橋渡しとして修了者の会が位置づけられていますが、そのためには出会いや交流の場を通じて仲間となり、その場が充実して活動が広がっていくということでしょう。別の言い方をすれば、読書をテーマにしたイベントや読み聞かせの機会を作るだけでは仲間にはできないのではないかと、ということです。読書ボランティアが生涯学習の促進になるのは、暮らしが充実し、その一人一人がより健やかに過ごしていくから、というのが私の理解です。学校教育を終えた後も一人一人が自主的な学びと成長を遂げていくことができる場が地域社会にあることで、個の成長だけではなく、互いに暮らしを支え合っていく関係が育まれる、それが生涯学習としての地域活動の意義と捉えています。

先ほどの長橋副委員長の話も踏まえて、改めて講座修了後の地域参加へのハードルをどう越えていくか、昨年度の資料で説明いただいた図をもとに、場づくりと仲間づくりの観点からお示しいただいてはいかがでしょうか。講座の実施のみではなく、地域での活動への参加と、互いに暮らしを支え合う風土をどう作っていくのか、それが生涯学習としての意義ではないか、という整理を私から示させていただきます。

【I 委員（zoom）】

お願いしたいことは、養成講座修了生にボランティア団体などともっとつながれるように、次年度も引き続き積極的に応援サポートよろしくお願いします。私自身のボランティア団体は幾つかしているのですが、随時募集しているのでいつでも希望の方大歓迎です。

【委員長】

I 委員から「くさつ夢本陣」前での「くさつ古本市」の小冊子をいただいて、素敵な活動だと思っ一方で、そうした活動に触れる機会をより多くの人に知っていただきたい、という思いを抱いたことを思い出しました。生涯学習課では「社会教育関係団体」の登録を受け付けていますが、草津での読書団体のリストが共有されるような工夫を提案いただきました。情報の管理が厳しいことは前提としつつ、例えば修了生の会の皆さんが結び目になって交流会をするなどでつながる場づくりも可能でしょう。何より、I 委員からは読み聞かせをしたい方は大歓迎と言っていたので、市民の皆さんの参加をサポートいただければと願っています。具体的な結び方は、必要に応じて、I 委員と個別にやり取りしながら調整をお願いします。

【J 委員】

感想になるんですけども、中学校の現場で読み聞かせっていうのは実際どうなんやってなったときに、3年生の家庭科で保育という分野がありまして。そこで、4人ぐらいのグループを作って男の子も女の子も一緒にやっていて、自分の小さいときに読んでもらっていた絵本や気に入っている絵本を持ってくるという感じで。私も参加させてもらったことがあるんですけども、受験でピリピリしているような空気がある中なんですけども、すごく空気感が和らぐというか、情操的にはやっぱりいいんだなあと思っていたところで、今回こんな形で読書ボランティアということで、それを掘り下げていろんな部分で意見いただいて、学校教育と社会教育とどう繋がっていくかと。そんなことを経験している中学生もいるということで、また社会での活躍に繋がっていく部分もあるかなあというふうに思ったところと、読書が盛んなまちというのはこれからすてきなまちになるのではないかなと思うので、まちのいろんなところで読書活動が自然に行われているというまちって本当素晴らしいなというふうなことを思いながら、参加させていただきました。

【委員長】

本日もまた、皆さんには積極的なご発言をいただきました。私からも少しコメントさせていただきます。

4ページのグラフ③と④の図が絵のデータになっています。PDF化されたものを読み上げ機能で閲覧される視覚障害の方などが読み解けないかもしれません。ここだけ他のグラフのデータと取り扱いが違うので、修正をお願いします。

また、文字の大きさについても改めて確認ください。例えば3ページの6名24名を四角で囲っているところなどはもう少し大きくした方が見やすくなるでしょう。

そもそもこのメンバーでの1回目の会議で、前の期の引き継ぎとして報告いただいた際、配付資料が白黒だったために読みづらい部分があるとH委員からご指摘いただいていたし

た。ぜひ、白黒で印刷されたとしても読みやすくしていただいて、手に取った方になるほどと受けとめていただけるような工夫をお願いいたします。

「おわりに」については今回の会議の終了後、委員長としてコメントは記させていただきます。その上で本日、皆さんからいただいたご意見を振り返りますと、報告書としては改善と分析の両方でバランスが取れてないというご指摘をいただいたように思われます。

先ほど、託児の件で多数ご意見いただきましたが、やりすぎることによってむしろ強い依存が生まれる場合や、ここまでされたら余計に申し訳ないという気持ちになって逆に関係がとりにくくなることもあります。ですので、場づくりや仲間づくりの観点から考えていけば、D委員がおっしゃったとおり、仲間同士であれば必要ない部分まで介入、あるいは過干渉にならないようにすることも大事だということが伝わるように表現を工夫ください。

また行政機関としては難しいかもしれませんが、F委員から示された若者へのアプローチとして、それぞれの日常の環境に合わせた SNS の展開のあり方も検討ください。少なくとも既に修了生の会で LINE が使われ、現時点で 16 名の方が関係と関心を維持・発展させています。修了生の会の説明の工夫とあわせて、ぜひ調整ください。

広報にあたって、B委員から効果的だった部分と今後の工夫が求められる部分のコメントをいただきました。QR コードの導入で募集は簡単にできるものの、いざ入力ややこしかったらそこで萎えてしまいますので、申し込み完了までの一連の流れについて改善や工夫をお願いします。

G委員からはボランティアのそもそもの捉え方についてコメントをいただきました。ボランティアの特性の 1 つである自発性だけではなく、例えば先駆性が発揮されて今後の雰囲気作りがなされることも重要ではないかといった声と受け止めました。これまでの講座の実績を踏まえて修了証を発行する、既に整理した図を活用して継続的な活動の意義を伝えていく、そうした意見を委員の皆様からいただきました。

実際に修了生の会の一員として活動されている I 委員からは連携の提案をいただきました。また、中学校の教育現場からの見立てとして、地域への愛着や家族への思いの中でも良い思い出は将来の暮らしの支えになることもお示しいただきました。絵本を読むことが情操教育の一環となることは皆さんもよくお感じのことと思われると思います。今回、H委員から志津学区での事例に触れられましたが、地域と読書の関係では立命館大学が隣接する志津南学区にある若草文庫のボランティアに学生も参加させていただいています。

この 2 年間、会議だけでなく実際の講座にも足を運んでいただいた委員もいらっしゃいました。何より会議では皆さんからご意見を多々いただきました。本当にありがとうございました。ここで報告書の文面は確定できませんが、まずは本日の内容を踏まえて事務局に最終案をまとめていただき、私の責任で最終確認を行った上で完成とさせていただきますことをご認めていただく存じます。その際、ご発言に関わる部分で個別に確認などいただく場合があることも、あわせてご承知くださいませ。

繰り返しですが丁寧なご審議と積極的なご意見をありがとうございました。最後、事務局

から連絡事項をいただきます。

【事務局】

報告書につきまして様々ご意見いただきましてありがとうございます。できる限り皆様方のご意見を反映させて、また山口委員長にもご覧いただいて完成という流れで進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

最後に連絡事項でございますが、報告会と書かせていただいております。この報告書が完成した際には、山口委員長と長橋副委員長より、教育長へ今期の取り組みについて報告いただく報告会を行いたいと考えております。報告会では報告書を教育長にお渡しをいただきまして、その後、ご歓談いただく時間をとりたいと考えておりまして、日程につきましては、報告書完成後に改めて調整をさせていただきたいと考えております。山口委員長と長橋委員長におかれましてはご多忙の折、大変恐縮に存じますが、報告会の方のご出席について賜りたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。日程調整の方、なるべく早めにさせていただきます。連絡事項は以上でございます。

【委員長】

本日議題としておりました件、すべて終了いたしました。報告書が完成いたしましたら事務局から皆様に報告いただきますのでよろしくお願いいたします。

【事務局】

本日、議題としておりました案件がこれですべて終了をさせていただいたということで、報告書の方は急ぎ事務局の方で修正いたしまして、山口委員長にご覧いただいた上で、完成いたしましたら委員の皆様にご報告をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

令和4年から5年度にかけまして、委員の皆様方には何回も検討や協議を重ねてきていただいたところですが、会議といたしましては本日が最終となります。約2年間、委員としていろいろ活動なさってるお立場からも様々な角度からご意見をいただきまして誠にありがとうございました。今後とも本市の社会教育推進に努めて参りたいと考えております。任期の方はあと少し残っておるんですけども今後とも、引き続きご指導、ご鞭撻のほうをよろしくお願いいたします。

会議の方終了とさせていただきます。